朝日新聞 朝刊 静岡県版（2023.5.1 発刊）

朝日新聞　第3種郵便物認可

Shizuoka リポート35

部活の地域移行 新たな形 手探り

少子化への対応や教員の長時間労働改善などのため、今年度から段階的に始まる公立中学の部活の「地域移行」。地元で好きなスポーツや文化活動を続けたい子どもたちのため、県内の自治体では、新たな部活の形を模索する取り組みが進んでいる。

（黒田壮吉）

静岡 拠点校中心にグループ化

静岡市立長田南中と長田西中の生徒がともに活動する女子ソフトボール部。地域指導員の竹下さん（奥）が指導していた＝静岡市駿河区の長田南中

「ナイスプレー」

平日の夕方、静岡市駿河区の長田南中のグラウンドで行われる女子ソフトボール部の練習。同中と近隣の長田西中の生徒が一緒になり、トスバッティングをしたり、ノックを受けたりしていた。

静岡市が取り組む部活動改革「シズカツ」。種目や地域の状況に応じて市教委が近隣校のグループ（エリア制）を指定し、拠点校を中心に活動するというもので、このチームで中体連の大会にも参加することを想定している。同校では昨年度、実証実験が行われ、今年度も同じ体制で部活が実施されている。

長田南は女子ソフトボール部の拠点校で、同じエリアの長田西、城山中の生徒が参加する。現在、城山中の生徒はいないが、長田南が8人、長田西4人が合同で練習している。

長田西中には元々、女子ソフトボール部がなく、同中3年の斉藤天音さんは「小学校からソフトボールをしており、クラブチームに入ることを考えていた。エリア制のおかげで平日もみんなで練習ができてうれしい」。長田南中3年の安竹ななみ主将は「部員が増えることで、練習も、交流の幅も広がった」と話した。

市によると、少子化の影響で2016～20年の5年間で、42部が廃部・休部となった。半数以上の23校で部活が10部以下。市教委の小学6年生1371人を対象にした調査（21年）で、3人に1人が「やりたい種目が部活にない」と回答した。

部員数についても、20年時点で351部中81部が10人以下と大会参加など多様な活動が難しくなっている。また、市の19年の調査では、競技経験のない教師が顧問をしている割合は51％で、専門的な指導が受けにくい環境にある。

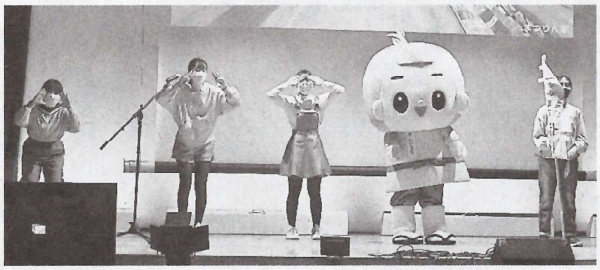
こうした現状を踏まえ、シズカツではエリア制とともに、主に休日に住民らによる専門的な「地域指導員」を確保することで、充実した指導を受けられる環境を整えようとしている。

長田南中では、OBで近くに住む指導員の竹下篤さん(55)が週末を中心に、平日も都合がつけば生徒たちを指導している。同部顧問の志田貴宏教諭はソフトボールの競技経験がないが、竹下さんはソフトボール歴が長く、社会人のクラブチームにも所属。志田教諭は「（竹下さんは）子どもたちに熱心に指導していただけるので、とても助かっている」と話す。

ただ、指導員には生徒との接し方に悩む場面もあるという。竹下さんは「部活はあくまで教育活動の一環。生徒の学校での生活態度は分からず、生徒同士のトラブルに踏み込んでいけるかは難しい面もある。先生との情報共有は欠かせない」と話す。

市は26年度から「シズカツ」の市内での全面的な実施を目指す。指導員の確保など課題は多いが、市の担当者は「子どもが好きな種目をできる環境を、地域の皆さんとともに支えていけたら」と話す。

掛川 NPO法人が文化部運営



イベントに向け、ダンスの練習をするパレットの生徒たち＝掛川市

掛川市では市に先駆け、NPO法人が地域の文化部活動を展開している。

学校の枠を超え、市内の中学生たちが活動する「掛川未来創造部Palette（パレット）」。2018年度に始まり、現在はNPO法人「日本地域部活動文化部推進本部（POCCA、ポッカ）」が運営している。

活動内容は生徒自身が考え、指導者は置いていない。在籍数は現在、中学2、3年の21人で、市内の五つの中学から参加がある。ダンスやアート、声劇、ITなどの活動があり、職員が見守るなか、週2回、2時間程度集まる。外部の指導者からオンラインなどで指導を受けることもある。

ダンスをしている掛川西中3年の内田花恋さんと大須賀中3年の山下涼花さんは「自主的に考えて活動できて楽しい。ここなら他の学校の子とも仲良くなれる」と話す。舞台の裏方などで運営に関わる掛川東中2年の大石悠楓さんは「舞台を一から作るなど、部活ではできない経験ができてありがたい」と語った。

当初あった県の助成がなくなり、現在1人月額2千円の部費をとっているが、会場費や人件費などをまかなうのは難しいという。ポッカの斉藤勇理事長は「自分で考え行動する力を伸ばしてほしい。全国にも挑戦できる場を広げたい」と話す。掛川で「地域部活」のモデルをつくり、全国展開したいという。

掛川市は26年度までに、市立中学校の部活動の全面的な運営を、新たに設ける地域の団体に移行する方針だ。休日だけでなく平日の部活動も学校から切り離すのは、「全国的にみても先駆けとなる取り組みだ」（久保田崇市長）という。市は「すでに活動している団体とも連携しながら、よりより地域部活動にしていきたい」としている。

※記事後半「掛川 NPO 法人が文化部運営」に NPO Pocca 主催 Palette に関する掲載